

授業科目 聴覚障害 III 演習

| 【担当教員名】 山口 富一、吉岡 豊 | | 対象学年 | 3 | 対象学科 | 言語 |
|---|--|---|-------------------------------|-------------------|---|
| | | 開講時期 | 前期 | 必修選択 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 | 時間数 | 30 |
| 【カリキュラムポリシーとの関連性】 | | | | | |
| 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 | |
| ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | |
| 【概要・一般目標：G10】 言語聴覚士として必要な聴覚障害関係の機器測定や評価・コミュニケーション手段について習得する。 | | | | | |
| 【行動目標：SBO】 1. 補聴器に関する専門用語や特性表を説明できる。 2. 補聴器の調整器についてその特性を同定する。 3. 聴覚機能検査の結果をもとに補聴器装用耳を考える。 4. 聴力の型に合わせて補聴器を調整できる。 5. 耳型採取について理解する。 6. 補聴器装用効果について説明できる。 7. 補聴器障害について理解する。 8. 人工内耳の構造とマッピングについて説明できる。 9. 盲ろう二重障害児・者の特徴と援助方法について理解する。 | | | | | |
| 回数 | 授業計画・学習の主題 | | | SBO 番号 | 学習方法・学習課題 備考・担当教員 |
| 1 | 補聴器に関する用語等を理解し、特性表を読み取る。 | | | 1 | 吉岡（講義と演習） |
| 2 | 補聴器の調整器と出力変化について理解する。 | | | 2 | 吉岡（講義と演習） |
| 3 | 補聴器のボリューム、音質調整、出力制限、イヤホン、ダンパーを変えて測定する。 | | | 2 | 吉岡（講義と演習） |
| 4 | 聴覚機能検査結果から補聴器装用と特性を決定する。 | | | 3 | 吉岡（講義と演習） |
| 5 | 聴力の型に合わせて補聴器の出力を調整する。 | | | 4 | 吉岡（講義と演習） |
| 6 | 耳型採取の実際を見る。 | | | 5 | 吉岡（講義と演習） |
| 7 | 補聴器装用効果の測定について説明できる。 | | | 6 | 吉岡（講義と演習） |
| 8 | 補聴器障害について理解する | | | 7 | 吉岡（講義と演習） |
| 8 | 人工内耳の構造と機能を理解する。 | | | 4 | 山口（講義と演習） |
| 10 | 人工内耳の術前評価をする。 | | | 8 | 山口（講義と演習） |
| 11 | 人工内耳のマッピング。 | | | 8 | 山口（講義と演習） |
| 12 | 人工内耳の装用効果の評価（成人）する。 | | | 8 | 山口（講義と演習） |
| 13 | 人工内耳の装用効果の評価（小児）する。 | | | 8 | 山口（講義と演習） |
| 14 | 盲ろう二重障害児・者の特徴 | | | 9 | 吉岡（講義と演習） |
| 15 | 盲ろう二重障害児・者への援助方法 | | | 9 | 吉岡（講義と演習） |
| 【使用図書】 | | <書名> | <著者名> | <発行所> | <発行年・価格 他> |
| 教科書 (必ず購入する書籍) | | 聴覚障害 I 基礎編（改訂版）、II 臨床編（改訂版） | 山田弘幸、佐場野優一 編 | 建帛社 | 2007・2,500円＋税 |
| 参考書 | | 改訂第2版 補聴器フィッティングの考え方 アドバンスシリーズ・コミュニケーション障害の臨床 7 聴覚障害 | 小寺一興 日本聴能言語士協会 講習会実行委員会 | 診断と治療社 共同医書出版社 | 2006・3,200円＋税 4,000円＋税・ ISBN4-7639-3027-3 |
| その他の資料 | | 必要に応じてプリント配布 | | | |
| 【評価方法】 演習なので4/5以上の出席を単位取得の前提とする。レポート提出50%、定期試験50%で評価する。 | | | 【履修上の留意点】 | | |